調査・設計等分野における入札・契約の動向について

総合技術政策研究センター　建設マネジメント技術研究室
室長 森田　康夫　主任研究官 小林　肇　研究官 吉田　純土　部外研究員 南　昌宏

（キーワード）　調査設計等業務、入札方式、総合評価落札方式

1．はじめに

国土交通省が発注する調査・設計等業務における総合評価落札方式（価格と技術を総合的に評価して落札者を決定する方式）は、平成19年度に導入されて以来、着実に発注件数を増加させ、平成24年度は調査・設計等業務全発注件数の約47％を占めるに至っている。この間に、履行確実性評価（調査基準価格を下回った入札者の技術点に履行の確実性に応じて0.0～1.0の値を乗じるもの）等の各種低入札対策が総合評価落札方式に導入され、低入落札発生率は0.2％まで減少した。

その一方で、入札価格が調査基準価格近傍に集中する傾向が強まっており、依然として価格競争を強く意識した入札が行われていると考えられる。

2．総合評価落札方式における入札金額の状況

各入札金額の調査基準価格に対する比を「調査基準価格比」と定義し、地方整備局等が実施した業務における各入札の調査基準価格比1.0～1.05の出現頻度を表に示す。落札、入札ともに年々調査基準価格直上での入札が増加していることが分かる。この結果を受けて、聞き取り調査を行ったところ、受注者側から、技術力において優位であるとしても、他者との技術点差が小さい場合や不明な場合には、その技術力を価格に転嫁することが困難であり、最終的には単なる価格競争に陥ることを指摘された[2)]。

表　調査基準価格比 1.0～1.05 における出現頻度

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
落札	0.211	0.359	0.553	0.635
入札	0.231	0.420	0.600	0.657

3．総合評価落札方式における技術評価

前章の指摘を受け、総合評価落札方式を適用した平成24年度の各業務における技術点1位と2位の得点差の分布を図に整理した。約27％の業務おいては5点を超える得点差があるものの、約26％の業務において技術点差が1点未満の僅差であることが明らかになった。

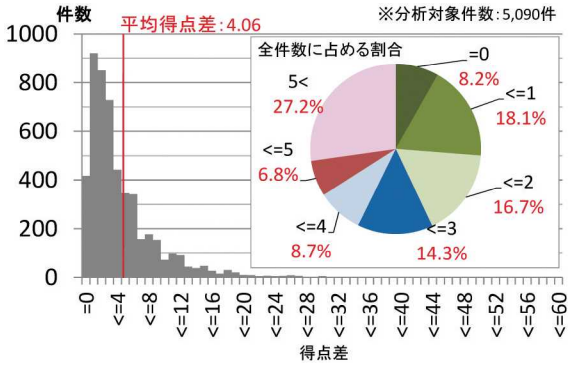

図　技術点１位と２位の得点差の分布

4．今後の研究について

過度な価格競争は、品質の低下のみならず、建設業界全体の技術力の低下を招く恐れがある。技術力の適正な評価のためにも、総合評価落札方式の技術評価手法の見直しや、プロポーザル方式、価格競争方式を含めた発注方式適用のあり方等について今後検討していきたい。

また、近年、発注量の減少に伴い一部の業種においては地域企業と広域企業の競合が見られる3)。災害時対応等を担う地域企業の健全な育成を検討するためにも、今後は企業分類毎の入札動向に注視していきたい。

【参考】

1）調査・設計等業務に関する入札・契約の実施状況
http://www.nilim.go.jp/lab/peg/siryou/chousasekkei_hinkakukon/20130325shiryou2.pdf
2）吉田、森田、大谷、南：調査・設計等分野における国土交通省直轄事業の総合評価落札方式に関する一考察、土木学会論文集F4、2013.12
3）南、森田、大谷、吉田：調査・設計等業務における広域企業と地域企業の競合に関する一考察、土木学会論文集F4、2013.12